② 塩素　本品約0.15ｇを0.001ｇの桁まで量り、その数値を記録し、水50mLを加えて溶かし、硝酸５mLを加えた後、0.1mol／Ｌ硝酸銀溶液25mLを全量ピペットを用いて加え、混和し、ニトロベンゼン３mLを加え、激しく振り混ぜた後、硫酸第二鉄アンモニウム試液２mLを加える。過量の硝酸銀を0.1mol／Ｌチオシアン酸アンモニウム溶液で滴定し、塩素（Cl）の量を求めるとき、その量は、21.5～23.5％でなければならない。

0.1mol／Ｌ硝酸銀溶液１mL＝3.545㎎Cl

乾燥減量　1.0％以下（１ｇ，減圧，100℃，３時間）

強熱残分　0.20％以下（１ｇ）

定量法　本品約0.05ｇを0.0001ｇの桁まで量り、その数値を記録し、メタノール（２→３）に溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、更にメタノール（２→３）を標線まで加えて100mLとする。この溶液５mLを全量ピペットを用いて量り、100mLの全量フラスコに入れ、メタノール（２→３）を標線まで加えて100mLとし、試料溶液とする。別に、アンプロリウム標準品を乾燥し、その約0.05ｇを0.0001ｇの桁まで量り、その数値を記録し、メタノール（２→３）に溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、更にメタノール（２→３）を標線まで加えて100mLとし、この溶液５mLを全量ピペットを用いて量り、100mLの全量フラスコに入れ、メタノール（２→３）を標線まで加えて100mLとし、標準液とする。試料溶液及び標準液をそれぞれ４mLずつ全量ピペットを用いて量り、試験管⑴及び⑵に入れ、別に、メタノール（２→３）４mLを全量ピペットを用いて量り、試験管⑶に入れる。各管に２，７―ジオキシナフタリン試液10mLを全量ピペットを用いて加え、密栓し、よく混和した後、20分間放置する。次に、それぞれ２～３分間遠心分離した後、⑴及び⑵の上澄液につき、２，７―ジオキシナフタリン試液を添加した後、20～45分間に⑶の上澄液を対照液として、波長530nm付近の極大波長における吸光度A_T及びA_Sを測定する。

アンプロリウム（$C_{14}H_{19}ClN_4$・HCl）の量（㎎）

＝アンプロリウム標準品の量（㎎）$\times\frac{A_T}{A_S}$

b　エトパベート

含量　本品は、定量するとき、エトパベート（$C_{12}H_{15}NO_4$）95.0～103.0％を含む。

物理的・化学的性質

① 本品は、白色～微紅白色の粉末で、臭いはほとんどない。

② 本品は、クロロホルムに溶けやすく、メタノール又はエタノールにやや溶けやすく、エーテルに極めて溶けにくく、水にほとんど溶けない。

確認試験

① 本品のメタノール溶液（１→125,000）につき、吸収スペクトルを測定するとき、波長266～270nm及び297～301nmに吸収の極大を示し、波長236～240nm及び285～289nmに吸収の極小を示す。

② 本品及びエトパベート標準品を乾燥し、それぞれ赤外吸収スペクトル測定法の臭化カリウム錠剤法により測定し、スペクトルを比較するとき、両者の吸収は、同一波数のところに認められ、これらの吸収の相対強度は等しい。